



令和 4 年

第 1 回名寄市議会定例会行政報告

名 寄 市

令和4年度の予算編成	1
“市民と行政との協働によるまちづくり”	2
・市民主体のまちづくりの推進	2
・人権尊重と男女共同参画社会の形成	3
・交流活動の推進	4
“市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり”	5
・健康の保持増進	5
・地域医療の充実	6
・子育て支援の推進	7
・地域福祉の推進	8
・高齢者施策の推進	9
“自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり”	10
・環境との共生	10
・消防	11
・交通安全	12
・消費生活の安定	12
・住宅の整備	12
・上水道の整備	13
・下水道・個別排水の整備	13
・道路の整備	14
“地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり”	15
・農業・農村の振興	15
・森林保全と林業の振興	17
・商工業の振興	18
・雇用の安定	19
・観光の振興	20
“生きる力と豊かな文化を育むまちづくり”	21
・小中学校教育の充実	21
・大学教育の充実	24
・生涯学習社会の形成	25
・生涯スポーツの振興	26
・青少年の健全育成	28
・地域文化の継承と創造	29

本日、令和4年第1回定例会の開会にあたり、これまでの主な行政事項について、その概要をご報告申し上げます。

令和4年度の予算編成

はじめに、令和4年度の予算編成について申し上げます。

本市の令和4年度各会計予算は、骨格予算となりますが、総合計画の将来像の実現に向けて、継続事業を中心とした様々な施策や事業を盛り込み、予算を編成しました。

主な事業では、南保育所を改築する認定こども園等整備事業、なよろ温泉サンピラー整備事業、智恵文小中学校整備事業、豊栄西12条仲通道路改良舗装事業などの道路新設改良事業、栄町55団地改修工事などの市営住宅環境整備事業など、また、ソフト事業では、再生可能エネルギー導入計画の策定業務委託、中学校における部活動改革推進事業、スクールソーシャルワーカー配置事業などを計上しました。

一般会計の予算案は、前年度予算と比べ10.8パーセント増の236億7,789万7千円となりました。

また、5つの特別会計予算は88億8,919万1千円、企業会計予算は170億236万6千円、全会計の総額では495億6,945万4千円となりました。

なお、予算編成の主な財源として、財政調整基金で4億9,312万9千円、減債基金から3億8,200万円、公共施設整備基金で3億5,000万円を繰入し、収支の調整を図りました。

引き続き、限られた財源を有効活用し、行財政改革に取り組むとともに、財政規律を遵守し、健全な財政運営に努めてまいります。

“市民と行政との協働によるまちづくり”

市民主体のまちづくりの推進

次に、市民主体のまちづくりの推進について申し上げます。

令和4年度に行う名寄市総合計画（第2次）後期計画の策定に向けて、課題を整理するとともに、市民満足度の変化を把握するためアンケート調査を実施し、郵送やFAXなどでの回答140件、WEBでの回答862件、合計1,002件の回答をいただきました。

中期計画策定時に実施したアンケート調査では回答630件のうち、50代以上が7割を占めたのに対し、今回、新たにWEBでの回答を加えたことにより、回答数が大幅に増加するとともに、とりわけ若い世代の回答が増加し、年代による偏りなく回答をいただくことができました。

次に、広報・広聴事業について申し上げます。

動画による本市の魅力発信に取り組むため 12 月から名寄市公式 YouTube チャンネルを開設しました。2 月 7 日現在までにふるさと応援寄附に係る P R 動画をはじめ 8 本の動画を発信しており、チャンネル登録者数は 640 人となっています。

今後においても魅力発信につながる内容を研究し、随時発信していくとともに、ホームページや SNS などを活用しながら周知にも取り組んでまいります。

また、魅力発信の取組としては、1 月 8 日、9 日に開催された成人式において、郷土愛の醸成につながることを期待し、新成人が楽しんで撮影できるようフォトブースを設置しました。撮影された写真は SNS などで拡散され、本市の P R につながりました。

さらに、11 月から実施した「なよろの冬の魅力」をテーマとしたフォトコンテストには、395 点の応募があり、1 次選考を通った 18 作品を市内各所に展示するとともに、SNS による発信に取り組んでいます。

人権尊重と男女共同参画社会の形成

次に、男女共同参画社会の形成について申し上げます。

1 月 22 日に、フリーアナウンサーの^{さとう まみ}佐藤麻美さんを講師とした男女共同参画セミナーを開催し、参加した 46 人の市民が、性別に関わ

らず誰もが意欲に応じてあらゆる分野で活躍できる社会づくりについて理解を深めました。

交流活動の推進

次に、交流活動の推進について申し上げます。

国内交流については、山形県鶴岡市、東京都杉並区との交流において、なよろ観光まちづくり協会と連携して、年末用の切り餅やじゃがいもなど、本市特産品の斡旋販売を行い、地域の魅力をPRしました。

国際交流については、姉妹都市カナダ国カワーサレイクス市リンゼイとの交流事業において、交換学生派遣の代替事業として、名寄・リンゼイ姉妹都市友好委員会が1月8日、9日の2日間、市内高校生を対象に「Nayoro でプチカナダ留学」を開催しました。イングリッシュネイティブの外国人講師による英語しか通じない「外国」を疑似体験する中で、英語を楽しみながら学び、国際感覚を磨く機会となりました。

また、友好都市ロシア連邦ドーリンスク市との交流事業では、友好都市提携30周年を記念し、12月16日にオンライン会談を開催しました。市、市議会、友好委員会などが参加して、変わらぬ友情とさらなる交流を確かめました。

さらに、台湾との交流では、12月21日に名寄産業高等学校と台湾国立中山^{ちゅうざん}大学西湾学院とのオンライン授業交流を行い、互いの文化について認識を深めました。

次に、移住・定住について申し上げます。

「名寄市移住促進協議会」では、12月11日に「北海道オンライン移住相談会」に参加し5件の相談を受けました。相談者の中には移住体験ツアーに参加している方もおり、引き続き関係性を維持してまいります。

また、12月27日には、「なよろ移住者交流会」を開催しました。本年度移住された4人の方を含む14人が参加され、移住者や地域住民とのつながりが生まれる場となり、参加者からも定期的に開催を希望する声があったことから、継続して実施し定住促進につなげてまいります。

そのほか、本市の暮らしの魅力を発信するプロモーション動画については、冬の撮影を終え、年度内に公開を予定しています。

“市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり”

健康の保持増進

次に、健康の保持増進について申し上げます。

新型コロナワクチン接種については、2月8日現在の満12歳以上の記録住民24,077人に対し、2回目の接種を終えている方が21,769人で、接種率は90.4パーセントの状況です。

3回目のワクチン接種については、昨年12月から市立総合病院において医療従事者への接種が開始され、本年1月からは高齢者施設の入所者及び従事者、2月13日からは一般高齢者への集団接種を開始したところです。

今後も市内医療機関のご協力をいただきながら、希望される市民への接種を進めてまいります。

地域医療の充実

次に、病院事業について申し上げます。

市立総合病院の令和3年4月から12月までにおける、患者取扱い状況については、入院患者数が延べ6万5,901人で前年比284人、0.4パーセントの減少となっています。また、外来患者数は、16万6,142人で前年比6,470人、4.0パーセントの増加となっています。

入院収益については、40億8,167万円で前年比1,386万円、0.3パーセントの増加となっています。また、外来収益は19億8,449万円で前年比6,527万円、3.4パーセントの増加となっています。この結果、収益の合計額は、60億6,616万円となり、前年比7,913万円、

1.3 パーセントの増加となっています。

また、令和4年度の診療体制については、診療科22科に医師64人と研修医6人の合計70人を配置、このほか医療技術・看護スタッフなどで428人の体制を予定しています。

今後も、医療スタッフの確保に努めるとともに、地方センター病院として、圏域内の病院や診療所と連携し、新型コロナウイルス感染症対応や救急医療、急性期医療を中心に対応してまいります。

子育て支援の推進

次に、子育て支援の推進について申し上げます。

12月1日に、こどもの遊び場「にこにこらんど」をオープンしました。コロナ禍のため利用定員を制限していますが、12月は一日平均約130人のご家族の来所があり、1月以降も連日多くの子育て中の家族に利用していただいています。

引き続き、利用者の声を反映しながら、気軽に利用していただける施設として運営してまいります。

子育て世帯臨時特別給付金については、児童手当対象世帯1,017件1,854人（うち高校生分160人）に対して昨年12月28日に10万円を一括給付しています。また、1月20日には、公務員等世帯776件1,348人（うち高校生分322人）に対して一括給付しています。

単身赴任等で別居のため対象となる児童の住民登録が本市にない場合などは、申請が必要なことから、広報や新聞などを通じてお知らせしてきています。

また、新生児については、出生届提出時にこども未来課にて手続きの説明を行い申請していただいています。

今後も関係機関と連携しながら、子育て支援の向上を図ってまいります。

地域福祉の推進

次に、地域福祉の推進について申し上げます。

第3期名寄市地域福祉計画については、昨年12月2日に名寄市保健医療福祉推進協議会より計画書素案の答申を受け、12月27日からパブリック・コメントを実施しました。

また、昨年10月頃から高騰が続いている原油価格に対して、冬期用暖房燃料を購入することで生活費に大きな影響がある収入の低い世帯などを対象とした「名寄市暖房費用緊急支援事業」を実施しています。広報なよろ1月号に申請書を折込み、2月8日現在、711世帯から申請があったところです。

今後も、子ども、高齢者、障がい者など、全ての市民が安心して健やかに暮らしていくことができる「自立と共生」の地域社会づく

りを進めてまいります。

高齢者施策の推進

次に、高齢者施策の推進について申し上げます。

名寄市医療介護連携情報共有 I C T ネットワークについては、昨年 7 月に本格運用を開始し、1 月末現在の参加施設数は 56 施設で利用者登録数は 900 件を超えており、参加する医療機関・介護事業所担当者のご理解・ご協力により着実に利用者が拡大しています。

運用による効果については、医療情報・薬剤の調剤データ情報の取得が容易になり利用者に適切な介護サービスを提供することができたことや、介護情報をリアルタイムに提供することで利用者の状態を連携する医療・介護担当者が速やかに把握できたことのほか、医療から介護に移行する場合もスムーズな対応ができたことなど、患者や利用者にとって効果的できめ細かいサービスの提供につながっています。

また、市と事業所における手続き、情報開示、報告などのペーパーレス化による業務改善や経費節減が図られています。

今後も運用面での課題整理や改善を行い、各関係機関のご協力をいただきながら住民周知などを行い、利用拡大を進めてまいります。

“自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり”

環境との共生

次に、環境との共生について申し上げます。

本年度から3年計画で公共施設照明のLED化を進めています。

省エネルギー化による温室効果ガスの排出抑制を図りながら、公共施設の維持管理費の削減と快適な環境整備の推進に努めてまいります。

次に、再生可能エネルギーの活用について申し上げます。

信金中央金庫創設70周年記念事業である地域創生推進スキーム「SCBふるさと応援団」を活用した事業について、実施する準備が整いました。内容については、物流事業者が活用している充電式保冷輸送機材の電力を、太陽光発電へ転換し、発電機材の規模や発電量の季節変動などの検証を行うもので、再生可能エネルギーの活用や本市における普及につながるよう官民連携し取り組んでまいります。

なお、関連する補正予算案を本定例会に提出させていただきますので、よろしくご審議をお願いいたします。

消防

次に、消防事業について申し上げます。

令和3年中の火災件数は、11件で前年と比較して2件の増となり、死傷者が2人発生しています。

また、火災種別では、建物火災8件、車両火災1件、そのほか2件となっています。

救急出動件数については、1,109件で前年と比較して107件の増となり、事故種別では急病749件、一般負傷136件、転院搬送113件、交通事故45件、そのほか66件となっています。

救助出動件数は35件で前年と比較して19件の増となり、事故種別では、交通救助11件、建物救助10件、雪害3件、そのほか11件となっています。

火災予防については、一般社団法人全国消防機器協会の住警器等配布モデル事業により、住宅用火災警報器や防災品が贈呈され、名寄市町内会連合会や名寄市消防設備協会などの協力を得て、住宅用火災警報器の設置、家庭用消火器や防災エプロンなどの配布を行い、住宅防火対策の推進が図られました。

また、危険物施設や防火対象物における立入検査については、全国平均を上回る査察実施率を維持しており、昨年12月に大阪市で発生した、ガソリンを用いた放火火災への対応として、類似施設及び

給油取扱所に緊急特別査察を実施し注意喚起を行い、市民が利用する施設の安全について確認しました。

交通安全

次に、交通安全について申し上げます。

本年度更新された国及び北海道の交通安全計画に連動し、第11次名寄市交通安全計画を策定しました。

今後も計画に基づき、官民一体となった交通安全施策を推進してまいります。

消費生活の安定

次に、消費生活の安定について申し上げます。

1月27日に風連瑞生大学との共催で、道北法律事務所かさらはらゆうじの笠原裕治代表社員弁護士を講師とした消費生活セミナーを開催し、参加した64人の市民が詐欺被害防止策などについて理解を深めました。

住宅の整備

次に、住宅の整備について申し上げます。

名寄市耐震改修促進計画策定業務は昨年5月に、名寄市公営住宅等長寿命化計画策定業務は昨年6月にそれぞれ着手し、本年3月に

計画策定が完了する予定です。

また、栄町 55 団地改修工事は、第 2 期 10 戸の住宅改修を 3 月に完成をし、順次、入居者の住み替えを進めてまいります。本年度は合計で 18 戸の改修をし、次年度には残り 24 戸の住宅改修を予定しています。

上水道の整備

次に、水道事業について申し上げます。

安定した給水を確保するための老朽管更新工事については、東 3 条仲通他 1 老朽管更新工事が 12 月に完成しています。

配水管網整備工事については、北 2 丁目通配水管網整備工事ほか 1 路線が 12 月に完成しています。

下水道・個別排水の整備

次に、下水道事業について申し上げます。

公共下水道ストックマネジメント計画に基づく名寄処理区下水道管渠更生工事については 12 月に完成しています。また、施設整備については、昨年度から着工している名寄下水終末処理場の雨水ポンプ設備 1 台が 2 月に完成しています。

個別排水処理施設整備事業については、12 基の合併浄化槽の受付

があり、このうち10基が2月までに完成しています。

道路の整備

次に、道路整備について申し上げます。

社会資本整備総合交付金により整備を進めている南10丁目右^{みぎ}仲通^{なかとおり}は1月に、北3丁目通、豊栄西12条仲通は2月に、本市単独費により整備を進めている南1丁目通は12月に完成しています。

また、八千代橋^{やちよばし}の修繕工事は12月に、ラカン沢^{さわごうはし}5号橋は2月に完成しています。

次に、市道の除排雪について申し上げます。

本年度の除排雪対策については、除雪延長435キロメートル、排雪延長149キロメートルを対象に進めており、排雪については、委託により2月末には生活道路の作業を完了する予定です。幹線道路では、積雪状況に応じて継続的に対応するとともに、道路センター職員により交差点のカット排雪や道路の狭い箇所での拡幅作業などを実施してまいります。

また、除雪グレーダー1台の更新を行っており、効率性や作業性が上がるものと期待しています。

引き続き、安全で安心な冬期間の道路交通網を確保するとともに、

円滑な事業の推進に努めてまいります。

“地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり”

農業・農村の振興

次に、農業・農村の振興について申し上げます。

はじめに主要農作物の状況について申し上げます。

水稻については、もち米^{ごめ}36万1千俵、うるち米^{まい}2万5千俵、合計38万6千俵の豊作となり、合併以降最高の出来となりました。

畑作については、干ばつの影響などを受け、多くの作物で収量や品質の低下がみられましたが、スイートコーン・馬鈴薯・玉ねぎなどの品目では、平年より販売価格が高く、全体としてはまずまずの年であったと受け止めています。

次に、基盤整備について申し上げます。

道営事業のちえぶん地区において、昨年11月に智恵文13線排水路の改修工事が着手され、令和6年度の完成に向けて工事が進められています。

次に、米政策について申し上げます。

令和4年産米の生産の目安については、前年度より151トン減少

し、うるち米^{まい}1,476 トン、もち米^{ごめ}10,959 トンとされ、作付面積に換算すると、うるち米^{まい}263 ヘクタール、もち米^{ごめ}1,950 ヘクタールとなりました。

国の経営所得安定対策では、水田活用直接支払交付金において、交付対象水田の要件が見直され、今後5年間に一度も水張りが行われない農地を対象外とする方針が示されました。市内においては、長年にわたり生産調整に協力し転作が定着しており、現場では作物や輪作体系など課題となる点も多いことから、市、JA道北なよろ、関係機関、生産者で構成する名寄地域農業再生協議会において、検討を進めているところです。

次に、薬用作物振興について申し上げます。

薬用作物の産地化に向けた取組は、本年度から小林製薬株式会社から企業版ふるさと納税による寄附を受けて、新たな事業を進めています。この間、農業振興センターにおいて培養苗供給事業に必要な施設を整備し、生産者への供給に向けて培養苗の作成に取り組んでおり、病害虫による減収に対応してまいります。

次に、多様で持続可能な農業経営の促進について申し上げます。

地域農業への貢献が期待される複数戸法人については、これまで

設立に向けた支援に取り組み、本年1月に智恵文地区において農家7戸を構成員とする法人が設立されました。

地域農業の中心として期待を寄せるとともに、引き続き必要な支援を検討してまいります。

次に、地産・地消の推進について申し上げます。

「なよろ産業まつり」の代替企画として、一般向けには農畜産物などをテーマとした写真や絵手紙、幼児向けには塗り絵コンテストを実施しました。市内外からフォトコンテストは2部門で49点、絵手紙コンテストは67点、幼児向け塗り絵コンテストは63点の応募があり、各部門の最優秀賞1人のほか、入選者100人には特産品を贈呈するとともに、応募いただいた作品は、展示やPR用素材として活用する予定です。

また、例年1月に行っています「輝け！新春なよろもちつき大会」についても、代替企画「2022新春！なよろ餅つきクイズ」を実施し、全問正解者の中から抽選で100人の方に、もち米商品の引換券を発送しています。

今後も、地場農畜産物の情報発信に取り組んでまいります。

森林保全と林業の振興

次に、森林保全と林業の振興について申し上げます。

名寄市森林整備計画は、市内における森林整備のマスタープランとなる計画で、「森林法」により北海道が策定する地域森林計画と適合を図り、森林整備のルールを定めることとされています。

国は、充実した森林資源の活用と同時に計画的に再造林すべき段階にあることなどを踏まえ、昨年6月に、全国森林計画の見直しを閣議決定し、北海道が「上川北部地域森林計画」を変更したことを受けて、現在、本市では、年度内の「変更計画」に向けて作業を進めています。

商工業の振興

次に、商工業の振興について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響に対する経済対策として、昨年10月25日から販売を開始した「プレミアム付き商品券事業」については、市民や事業者からの強い要望を受けて、販売期間を1月14日まで、有効期間を2月20日まで延長して実施し、販売総数は8万4,682セットであったと実行委員会から報告を受けています。本事業により4億2,341万円の消費効果があり、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた市内経済の回復と活性化に一定の効果があったと認識しています。

引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況、国や道の施策、市の経済状況を注視しながら必要な対策を講じてまいります。

昨年 の 第 4 回 定 例 会 で 全 部 改 正 を 議 決 い た だ い た 名 寄 市 中 小 企 業 振 興 条 例 に 関 して は、同 条 例 に 基 づ く 支 援 メ ニ ュ ー に つ い て、事 業 者 の ニ ー ズ に 沿 っ た 使 い 勝 手 の 良 い 制 度 と な る よ う、同 条 例 施 行 規 則 の 改 正 作 業 を 進 め て い る と ころ で す。

雇用の安定

次に、労働関係について申し上げます。

ハローワーク名寄管内における 12 月末の雇用情勢について、求職者に対し求人数が上回る状況が継続しています。

今春の新規高等学校卒業予定者の状況については、管内卒業予定者 530 人のうち、就職希望者は 119 人で前年比 16 人の減、うち管内就職希望者は 69 人となっています。12 月末の就職内定者数は 112 人、就職内定率は 94.1 パーセントで前年比 4.3 パーセントの減となっています。

王子マテリア株式会社名寄工場生産品集約に係る雇用対策については、昨年 12 月 1 日の稼働停止後、ハローワーク、上川総合振興局及び本市による離職予定者への説明会や地元企業が参加した企業面接会を開催しました。その後、ハローワークでの離職手続き、地元

定着推進事業の登録申請が進んでいるところです。

また、1月28日にJA道北なよろや市内旅客運送事業者で構成される「なよろ地域づくり事業協同組合」の創立総会が開催されました。人口減少や人材不足が進む中、地域の仕事を組み合わせることで年間を通じた仕事を創出し、地域の担い手確保、移住・定住の促進につながると期待しているところで、国のスキームに沿って支援してまいります。

引き続き、ハローワークをはじめ、関係機関と連携し、新型コロナウイルス感染症や工場の稼働停止が雇用情勢に与える影響に注視しつつ、雇用の安定と促進に努めてまいります。

観光の振興

次に、観光の振興について申し上げます。

名寄ピヤシリスキー場については、初めての試みとして、12月4日と5日の土日にプレオープンを実施し、その後、積雪の関係から、12月15日に本格オープンしました。昨シーズンに引き続き、新型コロナウイルス感染対策を徹底し、安全で快適にご利用いただけるよう指定管理者とともに努めてまいります。

なよろ温泉サンピラーの改修については、シャワールーム改修工事は、2月15日に入札を実施し、契約後、工事に着手しています。

温浴施設改修工事については、3月1日に入札を実施し、工事請負契約の締結について、今定例会での提案を予定しています。

冬の最大イベントである「なよろ雪質日本一フェスティバル」及び「ふうれん冬まつり」は、新型コロナウイルス感染防止の観点から規模を縮小して開催しました。70回目の節目を迎えた雪質日本一フェスティバルは2月11日から13日まで、イルミネーションやステージのライトアップを行ったほか、過去の雪像などの写真を展示し、懐かしみしました。ふうれん冬まつりは、2月12日から13日まで雪像コンクールを実施したほか、前夜祭として12日に打ち上げ花火を観覧していただきました。

名寄市観光振興計画（第2次）については、1月11日から2月11日までパブリックコメントを実施し、今後、結果をとりまとめ、議会に報告させていただき、年度内に策定します。

1月21日には、本市出身のカーリング選手で、現在コンサドーレ札幌カーリングチームに所属し、国内外で活躍されている谷田康真たにだやすまささんを名寄観光大使として委嘱しました。今後の活躍と本市の知名度向上への力添えに期待しています。

“生きる力と豊かな文化を育むまちづくり”

小中学校教育の充実

次に、小中学校教育の充実について申し上げます。

確かな学力を育てる教育の推進については、1月20日に、名寄市教育改善プロジェクト委員会から、令和3年度の研究内容である「学校における働き方改革の推進」や「次代を担う人材の育成」「ICTの効果的な活用」などについて答申を受けました。

1月25日には、名寄市教育研究集会を開催し、名寄市教育改善プロジェクト委員会の各研究グループと名寄市教育研究所の理科班、体育・保健体育班が、1年間の研究の成果を報告しました。また、教育講演会では、東京学芸大学准教授の高橋^{たかはしじゅん}純氏から「学びの質を高める学習指導とICT活用」と題してご講演をいただき、多くの示唆を得ました。

豊かな心を育てる教育の推進については、12月7日に、風連中学校を会場に心の教室相談員等交流会を開催し、「生徒との関わり方の工夫」や「保護者や関係機関との連携」などについて協議し、生徒の悩みや不安を受け止めてストレスを和らげるなど、心の安定と問題行動の未然防止に資する研修を深めました。

健やかな体を育てる教育の推進については、名寄市教育研究所の体育・保健体育班が各学校で実施した新体力テストの結果を分析し、今後の授業改善の方向性などについて検討しました。

学校給食では、地場産物として餅や寒締ほうれん草などを使用し

た季節感のある献立を提供しています。

また、3学期には、児童生徒へのアンケートにより上位に入った献立を「アンコール献立」として取り入れ、児童生徒に喜ばれています。今後も地産地消の推進と給食献立の充実を図ってまいります。

特別支援教育の推進については、11月8日に市立総合病院においてことばの教室研修会を開催し、児童の適切な支援方法などについて学びました。また、本年度も名寄市特別支援教育専門家チームを幼稚園や小・中学校などに派遣し、障がいなどのある児童生徒への望ましい教育的対応や適切な支援のあり方などについて、協議を深めました。

社会の変化に対応する力を育てる教育の推進については、12月23日に智恵文中学校、2月2日に名寄東中学校で、主権者に関する教育の一貫として、市長・教育長と児童生徒が懇談する「ふるさと未来トーク」を実施しました。

次年度は、名寄小学校や風連中央小学校などにおいても実施し、地域への愛情や誇りをもち、ふるさとに根付く子どもたちを育ててまいります。

信頼される学校づくりの推進については、名寄市立小中学校働き方改革推進会議と名寄市教育改善プロジェクト委員会の教育経営の充実に関する研究グループが連携し、各学校が共通して取り組む学

校における働き方改革の指標について協議するなど、実感を伴う働き方改革の取組の一層の充実を図っています。

また、令和6年4月の智恵文義務教育学校の開校に向け、名寄市立学校設置条例の一部改正について、本定例会に提案しますので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

大学教育の充実

次に、名寄市立大学について申し上げます。

名寄市立大学では、大学設置基準に基づきFD活動（ファカルティ・ディベロップメント）及びSD活動（スタッフ・ディベロップメント）を推進するためFD・SD委員会を置き、各種研修を実施しています。これは、組織的な研修・研究の実施を通じて、教員の教育及び研究力量の向上を図ること、また、教職員の研修を通じて、能力・資質の向上を目指すとともに、教育研究活動などの適切かつ効果的な運営を図ることを目的としています。

4月には、本年度から配属となった教職員を対象に本学教員が講師となり大学の特色ある教育について新任教職員研修を行い、9月には、コロナ禍の中で学生が同じ内容の授業を対面やオンラインなど複数の方法で受講できるよう、ハイフレックス講義のあり方について本学教員が講師となり全教員を対象に実施してきました。

また、12月には、北海道立総合研究機構から理事長を講師としてお招きし、民間企業出身者から見た道総研と今後の役割について、全教員を対象に講演を行い、時代の流れ環境の変化への対応について大学として何をすべきか、また、その実現に向けた支援は何かについて学んできています。

入学試験については、11月18日に学校推薦型選抜試験（受験者数128人）及び社会人選抜・編入学試験（受験者数8人）を本学で行い、12月1日に合格者を発表しました。

さらに、本年1月15日、16日には、本学を会場として大学入学共通テストが実施され、合計で111人の受験があり、2月の一般前期入学試験へとつながっていくことになります。

今後も、地域に根ざした教育活動の展開、名寄市立大学の特色と専門性を生かした学びの提供と学生確保を継続するべく、各種取組を進めてまいります。

生涯学習社会の形成

次に、生涯学習社会の形成について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期していた「生涯学習フェスティバル2021 in なよろ」を1月23日に開催しました。出会いの広場には1団体が出演、展示ブースには5団体が出展しま

した。

次に、市立図書館について申し上げます。

12月28日に本館で、1月7日には風連分室で冬休み企画「冬休みの工作」を開催し、合わせて14人の参加がありました。

また、1月7日からは本館で、おみくじと福袋の形式で本を紹介する企画を行い、子どもから大人まで多くの利用がありました。

次に、なよろ市立天文台について申し上げます。

年末年始にかけ、天文台の市民講演会「テンモン・カフェ」を開催しました。12月19日には、昨年天文にまつわる話題を振り返り、1月21日には、注目すべき天文現象について解説を行いました。

生涯スポーツの振興

次に、生涯スポーツの振興について申し上げます。

スポーツ施設の整備については、令和4年度から市内スポーツ施設の一元管理を行い、さらなるスポーツ振興を図ることを目的として、名寄市体育施設の管理に係る関係条例の整備に関する条例を本定例会に提案しますので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

スポーツ振興事業については、昭和46年に設立された風連町卓球

スポーツ少年団が、競技の普及や競技力向上に貢献されたことが認められ、令和3年度文部科学大臣表彰生涯スポーツ優良団体を受賞されました。

長年にわたり、地域のスポーツ振興をはじめ、青少年の健全育成にご尽力されてきたことに心から敬意を表するとともに、地域のために活動されてきた指導者、関係役員の皆様に心から感謝を申し上げます。

スキー、スノーボードなどの普及とピヤシリスキー場の利用拡大を目的とした市民スキーの日を1月23日に開催しました。

新たに幼児を対象としたスノーランニングバイクレースや、スノーマラソンを同スキー場で開催するなど、ウィンタースポーツの普及とスキー場の賑わいづくりに努めました。

スポーツ合宿推進事業については、昨年12月18日の第27回クロスカントリー名寄大会を皮切りに、ピヤシリジャンプ大会、全日本コンバインド選手権、北海道スキー選手権などが開催されました。

また、1月11日からは6日間の日程で北海道カーリング選手権も開催されており、冬季スポーツの拠点であるピヤシリヘルシーズンに全国各地から多くのアスリートが集結しました。

直前合宿や大会を受け入れていただいた競技団体の皆様をはじめ、地域の皆様のご協力に感謝を申し上げます。

Nスポーツコミッションでは、食・健康・スポーツをテーマにした料理レシピの開発プロジェクトに取り組みました。

この取組は、北海道味の素株式会社、株式会社西條、名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター及び同大学の栄養学科教員と学生有志が加わり、産学官連携によりレシピ開発が行われました。

開発したレシピを基に商品化された4品の料理は、2月と3月に株式会社西條様の店頭で販売されるほか、レシピの普及を図るとともに市内飲食店における商品化を目指しながら、市民の健康づくりやスポーツ合宿の誘致拡大にも活用していきたいと考えています。

青少年の健全育成

次に、青少年の健全育成について申し上げます。

名寄市公民館では、12月27日に冬休み子ども料理教室を開催し、17人の児童の参加がありました。参加した児童は北海道栄養士会名寄支部の講師から「冬の彩りお弁当」の作り方を学びました。

1月6日には、新春子ども書き初め広場を開催しました。参加した約30人の児童は手本を見ながら、筆を走らせていました。

1月8日には、新成人120人の参加により、昨年から延期となっていた令和3年の成人式を、9日には、新成人159人の参加により、令和4年の成人式を、それぞれ実行委員会の主催で開催し、人生の大

きな節目を祝いました。成人を迎えた皆様は、社会を支える一員としての自覚と責任を感じながら、友人との再会を喜び合いました。

今回で10回目となった東京都杉並区との小学生名寄自然体験交流事業が、12月25日から27日まで開催され、杉並区の小学生15人と引率者10人が本市を訪れました。

市内児童7人とスノーシュートレッキングや雪遊びで交流を深めるとともに、カーリングや天体観測など名寄の冬の自然や文化、スポーツを体験していただいたところです。

地域文化の継承と創造

次に、地域文化の継承と創造について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期していた第64回市民文化祭展示発表を12月3日から5日と10日から11日の2回に分けて開催しました。サークルや個人の作品を217人の方々が鑑賞しました。

次に、北国博物館について申し上げます。

12月17日から2月17日にかけて、特別展「アイヌと植物 命をつなぐ保存の知恵」を開催しました。自然との共生の中で、保存食として利用した植物や料理の方法などを紹介し、アイヌ文化を学んで

いただく機会となりました。

以上、主な行政事項について、その概要を申し上げ報告といたします。